「生き生き」を応援する、市民活動情報メディア

animato

VOL. 23

アニマート | Spring 2018

animato（アニマート）とは、演奏記号に使われる言葉で、「生き生きとした」「活気のある」「魂のある」などの意味をもちます。

JIBERS
ジバーズ
地場企業とNPOのパートナーシップ in 横浜

株式会社スリーハイ第２工場内にある「cafe&factory DEN」
地域住民、誰もが利用できるスペースとなっている。
奥は、株式会社スリーハイ代表取締役の男澤氏

横浜市 Yokohama Citizens Empowerment Center
市民活動支援センター

共に地域の未来に向けて出来ること

～地場企業編～

横浜は市民活動、地域活動、そして地場企業による社会貢献活動のいずれもが盛んなまちです。これからより良いまちを共に創るときに、「社会的課題解決のパートナーとしての地場企業」という認識をさらに高めるべく、今号は本業を通じて社会的課題解決に挑む地場企業を特集しました。

まずは、これから共に創る地域の未来を考える機会として、2017年11月に開催した「つながりのまちづくりフォーラム2017」に登壇された企業代表の本音トークを一部ご紹介します。

【登壇者】
○磯子区 株式会社安藤建設
　代表取締役 安藤 竜一 さん
○都筑区 株式会社スリーハイ
　代表取締役 男澤 誠 さん
○南区 株式会社太陽住建
　代表取締役 河原 勇輝 さん

【ファシリテーター】
○ NPO 法人れんげ舎
　代表理事 長田（おさだ） 英史 さん
○横浜市市民活動支援センター
　薄井 智洋

「つながりのまちづくりフォーラム 2017」ショートセッションの様子
右から、河原氏、男澤氏、安藤氏、長田氏、薄井

長田さん：なぜ、社会貢献活動を始められたのでしょうか。

男澤さん：実は、始めから「CSRをやろう！」と思って社会貢献活動を始めたわけではないんです。当社の工場は工業団地の中にあり、一般の方の住宅も増えてきたことで問題となるのが「住工混在問題」。操業環境を守るために「地域住民と共存する」ために、地域財産となるかもしれない防災マップ（東山田準工業地域防災マップ）を作ろうと決めました。ですが、それからは孤独と挫折の連続で…（笑）

近所の企業の方と一緒に進めたくて、早速ご挨拶に伺ったのですが「あなた誰ですか？」と言われてしまいました。確かに、今まで全く隣近所とのコミュニケーションが取れてなかったんです。周辺企業がだめなら社員だ！ということで社員を集めて相談したところ、「え、なんで自分たちが防災マップを作るんですか？」と冷たい反応（汗）

どうしていいか分からなかったので、横浜型地域貢献企業の先輩方にも相談しましたね。

そこで、インターンの大学生と一緒に防災マップを作ることになり、地域のNPOとつながって防災マップを完成させることができました。大変でしたが、現在の活動の礎となっています。

安藤さん：10年前に社長になった時、「地域に必要とされる会社になる」ことを当社の新たな目標として掲げました。というのも地元で根付いてきた会社のつもりなのに、看板を見ても「なんの会社？」と言われる事が多いと思います。当社もそうでした。

そこで、商店街の皆様や近隣の学校とコラボレーションして、一緒に地元の磯子区を盛り上げるウメニーの活動を始めたんです。

私自身はもちろん、社員のモチベーションにもつながりましたね。

グリーンバード横浜南チームの代表も務める河原さん

河原さん：私の会社はリフォームを中心に、施工を行っているのですが、やはり地域のお客様がいてこそ、仕事が成り立っています。そのことは社員にも伝えており、自分がお客様に何ができるかをしっかり考えて、それを報告し合う機会、「お客様会議」を月に1度開いています。

日に日に地域の皆様と一緒に何かしたい！という思いが強くなり、2016年3月から清掃活動（グリーンバード）を始めました。最近は多くの方にご参加いただけるようになり、地元商店の方、NPO法人とのコラボレーションもスタートしました。

2017年3月には、アーバンデザインセンター「おひさま広場」を開設しました。地域住民の方に利用してもらえるようなスペースを作ったところ、多くの方にご利用いただき、顔と顔が見える関係を築けたことで仕事の受注も増えました。仕事も継続できるし、地域のためにもなる、心から場の大切さを実感しています。

地域の皆さんで賑わう DEN の店先

長田さん：場の大切さというのは、具体的にどんな時に感じられますか？

男澤さん：地元の方と接点を持つことは、とても難しいと感じていました。自治会に全世帯の方が入るわけでもないですし、どうやったら多世代の方が集まれるか考えていたとき、工場が手狭になって、第2工場を借りたこともあり、どなたでもご利用いただける場として「町工場の中にあるカフェDEN」を開設しました。

DENができたことで子連れのお母さん、そして地元小学校の見学などが増え、今では社員が率先して工場案内をして、社会貢献に対するモチベーションも上がっています。あの防災マップの話をした時とは、比べ物にならませ

ん（笑）本当に社員に感謝しています。

河原さん：最近思うのは、「つながりがあるからこそ、コトが生まれる」と実感しています。

多くの方に「おひさま広場」をご利用いただき、そこから新しいプロジェクトが多く誕生しました。自分たちでも驚いています。

薄井：これからの未来に向けて、協働することの大切さ、また心得を教えてください

安藤さん：地域活動を通じて色々な人とつながれたことで、今では地域の皆さまから相談してくださることが増えました。相談を受けて、「これは難しいな～」と思うことも正直あるのですが、答えの出し方は一つではないですから、5＋5だけが10になるのではなく、20÷2も10になりますよね。

私はしつこい人間ではなく、諦めの悪い人間になりたいと思い、地域に出ています。しつこい人間は、自分が正しいと思う答えの導き方を何度も説いてくる。諦めの悪い人間は、手を変え品を変えどうすれば解決できるか考え抜き、一緒に解決できる道を探します。この両者は全く違いますよね。利己的ではなく、相手の目線で考える。無茶な相談でもしっかり心で聞いて、自分に出来ることはないか、自分の知り合いで出来る人が居るかもしれないなど、最後まで諦めずに考え抜きます。そうして、地域の皆さまと一緒に様々なプロジェクトを立ち上げることができました。

磯子区のご当地キャラクター「ウメニー」をデザインした自動販売機

杉田小学校の子どもたちが「杉田の街を元気にしたい！」という想いから作り出した磯子区のご当地キャラクター「ウメニー」。認知度を上げるために、地域と安藤建設とが連携し、オリジナルでデザインされた自動販売機を設置した。

男澤さん：無理はしないことですね。社会全体を良くしよう！というより、地元が良くなれば、それがモデルとなって広がるのではないかと思い、自分たちで出来る範囲の事を精一杯考えて、継続できるように取り組んでいます。昨年、一般社団法人を立ち上げて、地域活動に特化し会社事業とのすみ分けをすることで、社員への負担を減らしつつ、地域の皆さまとの接点を増やすことができました。

河原さん：インターネットや口コミの情報だけで、この会社とは相性が良さそう！と判断するのではなく、まずは顔と顔が見える関係をつくる事を大切にしています。雰囲気はインターネットからは分からないですからね。地域交流の場にも積極的に出向き、まずはつながってこそ、「コト」が生まれるのだと実感しています。

皆さまありがとうございました。

■参考リンク（必要な場を作り出そう）
animato 20号「自分らしく息がつける場所をつくる」（P8・P9）
対談「必要な場をつくりだそう」をぜひ、ご覧ください。

「つながりのまちづくりフォーラム2017」の打合せ～本番の様子をご覧いただけます。

横浜に根付く地場企業（ジバーズ）との協働

共に地域の未来を創るパートナーとして、地場企業とどのように関係を作り、一緒に活動すれば良いのか。地場企業の代表へのインタビューから、関係づくりに必要な３つのポイントをご紹介します。

【地場企業・団体との連携に必要な３つのポイント】

1 まずは「出会う」（信頼関係を築く）

信頼関係を築くには、地道に交流を広げて意見交換する機会をつくることが大切です。

冒頭にお話していただいた３人も、多くの異業種交流会や興味のあるNPO主催のセミナーに足を運び、協働相手を見つけたそうです。まず関係をつくるために、気になっている企業・団体のイベントやお店に足を運びましょう。

2「ニーズ」を知る（お互いの活動を理解する）

自社・自団体のアピールだけでなく、相手のミッション・ビジョンに耳を傾けましょう。何がしたいのか、何ができるのか、お互いにとってメリットを感じるプロジェクトを生み出すためには、まずは相手のことを理解することから始めましょう。

3 一緒に汗を流す（小さいことから、始めてみる）

地場の企業、団体同士の協働であれば、一度きりのイベントだけで関係が終わることは少ないはずです。無理に資源の提供をお願いするのではなく、一緒に汗を流せる機会を共に考え、小さい事でもいいので実践しましょう。

横浜型地域貢献企業って??

横浜市民を積極的に雇用している、市内企業との取引を重視しているなど、地域を意識した経営を行うとともに、本業及びその他の活動を通じて、環境保全活動、地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業等を、一定の基準の下に「横浜型地域貢献企業」として認定し、その成長・発展を支援する制度です。地域と企業が「信頼」と「ネットワーク」で結ばれる豊かな市民生活を実現することを目指しています。

次のような企業を「横浜型地域貢献企業」と定義しています。

1．地域や社会を意識し、
2．地域貢献の視点を持って社会的事業に取組み、
3．地域と共に成長・発展を目指す。

YOKOHAMA
地域貢献企業

【問い合わせ】
横浜企業経営支援財団　経営支援部経営支援課　　TEL：045-225-3714

01 株式会社 安藤建設

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1

・横浜市環境リサイクル協同組合主催の「環境絵日記」は、横浜市内の小学校が環境問題について考え、リサイクルや未来のエネルギー等の環境問題や環境保全について、絵日記形式で表現する取り組みで弊社は、環境絵日記プロジェクトの地域企業賞に毎年協賛しており、平成29年11月27日に横浜市立杉田小学校にて、表彰式に出席し、「地域企業賞」の授与を行いました。杉田小学校学校運営委員会の委員として活動し、地元企業としてのアドバイスを行っています。

・地元中学校（横浜市立森中学校 2名）の職業体験学習は、毎年、受入れています。平成30年1月24日に行い、「建設業とは」の座学を行い、稼働現場においては実際に測量器を用いて水平レベルの確認、基準墨出し体験、軽資材の運搬を手伝ってもらいました。限られた時間の中ではありましたが建設業の仕事や働くことについて何かを感じ取ってもらえたと思います。

横浜市立杉田小学校にて、「地域企業賞」表彰式の様子

A2

横浜市大サテライトオフィス、コミュニティーに貢献する場の開設に協力し、地域活性化に取り組んでいます。

商店街の空きスペースを生かし、これにリノベーション、リフォームを施し「地域拠点」の整備を図ります。さらに、地域活性化への支援、協力。小児ホスピス設立への支援、児童養護施設卒園者の就業支援や貧困家庭の子どもたちの自立支援等に繋がる取り組みを実施できればと考えています。

A3

はまっこ未来カンパニープロジェクトが主催の「よこはまアントレ博」が平成29年3月29日13時～16時に開催されました。弊社の地域にある、横浜市立杉田小学校が出場し、ウメニーのテーマソングを発表。連携外部機関として協力及び支援を行いました。

株式会社 安藤建設
ＴＥＬ：045-772-2121
メール：contact@ando-consut.co.jp
設立年：1960 年
所在地：横浜市磯子区中原 2-1-15
分　野：建設業

02 有限会社 今井かまぼこ

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1

・さつま揚げ作り体験教室

2013年開始。友人が主催するパパ友の会で親子体験教室を始めたのがきっかけ。以降、地元の小学校、地区センター、幼稚園等からお声掛けを頂き不定期で年1、2回行っています。取り組みをする中で得られた事は「出来立て揚げたてのさつま揚げを召し上がって頂いた時の参加者の笑顔と楽しかったというお声」、仕事への活力になります。また当日の参加者の方々の反応から普段自分では気づけない練り物の魅力を発見できます。

さつま揚げ作り体験教室

・商店街活性化への取り組み

2013年開始。商店街理事が若手へバトンタッチすることになり参加。新理事長と共に10年かけて活性化を図ろうとスタート。以降従来の活動に加え新たに「こども笑店街」「藤棚シネマ商店街」等を実施。約5年を経てようやく活性化に向けた仲間作り、雰囲気作り、繋がり作りが目に見えるようになってきました。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A2

今後は商店街地域活性化に向け、藤棚に移住してこられた建築家永田賢一郎氏と連携しリノベーション街づくりを進めます。4月に商店街内に永田氏が事務所兼キッチン付きレンタルスペースを開業予定。地域の拠点として、こども食堂・ワークショップ・新規開業者向けチャレンジショップ等を予定。さらに商店街に新店舗を誘致し、老舗と新規店が軒を並べる魅力あるエリアを目指します。

A3

地産地消を推進する横浜の料理人、生産者、加工業者が集まる団体「濱の料理人」の事務局として活動。様々なイベント、食育活動に参加。これからも食を通じて、地域との繋がりを深めて子ども達の世代へ、食の大切さを伝えていきたいと考えています。

写真：NPO 法人森ノオトさん提供

有限会社 今井かまぼこ
ＴＥＬ：045-321-7876
メール：hiroyuki_imai0724@yahoo.co.jp
設立年：1953 年
所在地：横浜市西区中央 2-5-13
分　野：魚肉練り製品製造業

Q3．自治会町内会・地域団体 NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

03 株式会社 大川印刷

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1

目立った活動開始は1996年からですが、古くは1935年、関東大震災後の復興記念横浜大博覧会に際して、地元経済活性化を目的とした活動の記録があります。SDGs（持続可能な開発目標）17の課題中、特に関係する重要課題について、本業を通じて解決に取り組んでいることが弊社活動の特徴です。本業を通じて活動するため、日々の事業活動そのものがCSR・地域活動につながります。従業員さんからの労働環境改善に対する評価の他、地域や社会とのつながりを意識した働きがい、生きがいの創造、外部からの共感増加と、それに伴う受注の増加がその効果と言えます。

2017 年度 SDGs 報告会の様子

A2

貧困や教育問題、人種や国籍による区別や差別、多様性理解

A3

横浜市・横浜市地球温暖化対策推進協議会、そしてその会員企業や大学と連携し、脱炭素社会形成を目指した活動をスタートしています。経済界への働き掛けをすることで、ビジネスで社会課題解決を行えるように仕向けていきます。

SDGs 報告会で発表をする弊社の社員

株式会社 大川印刷
ＴＥＬ：045-812-1131
メール：magokoro@ohkawa-inc.co.jp
設立年：1881 年
所在地：横浜市戸塚区上矢部町 2053
分　野：印刷および企画・デザイン

04 株式会社 協進印刷

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1

弊社では「本業を通じて社会課題を解決する」「社員が幸せになる会社を目指す」という長期ビジョンに基づき、中期計画とCSR目標を一体化した5つの中期ビジョンを立てています。その中のひとつである「地域住民とともに地域社会を守り、育み、安全安心で暮らしやすい街の実現に参画します。」というビジョンのもと、地域活動を展開しているため、活動のエリアは地域の人々と「暮らす」という感覚を共有出来る範囲に重点が置かれています。

「災害時助け合いネットワーク」は、平日の昼間に大規模地震が起こった場合に、大口に働きに来ているなど、住民ではない人たち相互の助けあいができるようなネットワークを普段から構築していこうという取り組みで、昨年から始めています。

A2

中期ビジョンにおいて取り上げている社会課題は、子どもの教育、安全安心で暮らしやすい街の実現、CSRの普及ですので、この3点を今後も継続していきたいと考えています。

A3

様々な活動を展開していますが、弊社が主体的に取り組むという意味では、戸塚消防署が地元保育園と作った「防火教育」のための子供向けダンスソングとコラボレーションした絵本を製作しています。

防災啓発に向けた教材絵本「ぼうさいえほん」の配布

災害時助け合いネットワーク

株式会社 協進印刷
ＴＥＬ：045-431-6611
メール：kyoshin@kyoshin-print.co.jp
設立年：1960 年
所在地：横浜市神奈川区大口仲町 108 番地
分　野：印刷関連サービス業

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

Q3．自治会町内会・地域団体 NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

05 （株）よこはまグリーンピース（「ど根性キッチン」ほか）

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
「横浜を地産地消の代表都市に！」を理念に掲げ、飲食店経営の他、横浜野菜推進委員会や濱の料理人などの活動、学校や自治体での地産地消・食育関連の講演、イベント、マルシェなど、様々な活動を行なっています。
店舗では、野菜は90％以上、肉や調味料も横浜市内産を使用し、食を通してつながりあえる店、小さな子どもにも胸を張って提供できる料理をコンセプトに、地域に必要とされる企業を目指しています。
代表の椿 直樹は、濱の料理人プロジェクトの発起人で、現在代表を務めています。料理人だけでなく、生産者、企業など横浜の食にまつわるプロたちが、地産地消を促すアイデアを出し合う場として、メンバーと共に活動を続けており、いずみ野小学校様にて、地元の子どもたちや生産者が作った農畜産物を使用し、プロジェクトメンバーが監修した「スーパー給食」と、食に関する意識を高め、食の重要性を学ぶ「出前授業」を2011年から実施しています。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A2
子どもたち自身が自分たちで五味五感がわかるように、与えられたものをただ食べるだけでなく、自ら食べ物を選択できる人になって欲しい。そして自ら考えて、自ら判断できる術を身に着けてもらいたい。料理人だからこそ伝えられる食べ物の大事さ、おいしさを、みなさまに楽しく学んでいただく活動を起こして参ります。

Q3．自治会町内会・地域団体NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

A3
2016年8月、相鉄線いずみ野駅前に「ど根性キッチン」を開店しました。以来、この店舗を拠点に、地域のみなさまと一緒に地産地消と食育の活動を行なっています。
2018年1月には、横浜市立いずみ野小学校6年生の生徒さんとコラボレーションし、特別ランチメニューを開発しました。
今後も地域のみなさまと共に、地元の農と食の大切さを伝えていく活動を続けて参ります。

いずみ野小学校６年１組コラボランチ
「やまゆりポークと大根のかつ」

いずみ野小学校６年２組コラボランチ
「ぶりてり定食」

株式会社 よこはまグリーンピース
ＴＥＬ：045-320-3077（大ど根性ホルモン）
045-410-8466（ど根性キッチン）
メール：yokohama.gpc@gmail.com
設立年：2011年
所在地：大ど根性ホルモン
横浜市西区北幸 2-13-4 第7NYビル B1F
ど根性キッチン
横浜市泉区和泉町 6214-1
分　野：飲食店経営

06 株式会社 ジャルダン・シュクレ

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
「地域に対して貢献できることはないか」と常に考え、当社にできることをできる範囲で、様々な取り組みをしております。災害時にお菓子を無償提供できるよう、1千人分を目標に少しずつ備蓄しています。また募金箱を設置し、介助犬育成への寄付や、沖縄の材料を使ったゼリーの売り上げの一部を、サンゴの養殖事業に寄付しております。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A2
取り組んでいきたい活動といたしましては、社内に自前の託児所を作るなどして、シングルマザーや共働きをせざるを得ない母親など、働ける環境を整えていきたいと考えております。社員の子ども私たちにとっては大切な財産です。地元に愛される企業として、地元に住む皆様と一緒に活動できたらと思います。

Japan Service D〜ssociation〜
法人会員証
株式会社ジャルダン・シュクレ　殿
貴社は 介助犬の育成と普及に温かい理解を示され 法人会員として社会福祉法人日本介助犬協会を支援されていることを証します
2017年11月吉日
社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長　伊藤利之
支援している社会福祉法人日本介助犬協会様より

Q3．自治会町内会・地域団体NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

A3
「金沢こども食堂」様へのお菓子の提供をさせていただいております。例えば母子のイベント時期・クリスマス会など、大量にお菓子が必要なときにご提供させていただいております。こども食堂のお子様から「おいしいおかしをありがとう」といったハガキをいただき、社員一同、何よりの励みになりました。
地元の子どもたちの笑顔に触れる機会があるだけでも、嬉しいですね。
また、NPO法人フードバンク横浜様に、賞味期限切れ間近の商品を無償で提供させていただいております。この活動は、食品の廃棄を極力減らす事ができ、尚且つ皆様に喜んでいただける活動です。今後も継続して取り組んでいきます。

株式会社 ジャルダン・シュクレ
ＴＥＬ：045-786-2632
メール：m-yoshida@gy-yokohama.co.jp
設立年：1990年
所在地：横浜市金沢区福浦 2-9-8
分　野：菓子製造卸

07 株式会社 春峰園

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
地元企業と住民のかけ橋がCSRという言葉を通じてつながりを見せてきているのではないかと近年感じております。CSR活動については、本業の負担になってしまう事はできませんので、時間があるときに社員と共に活動できる内容にして年に数回、地元住民の意向と企業でできることをマッチさせて取り組んでいます。
地元住民に愛されるまた、会社の創業以来掲げている『小さな木大きな木住みよいまちづくり』のキャッチフレーズの基、地域に根付いた会社運営を目指すようにしてだれに言われることもなく率先して地域の為に活動できる思いやりの気持ちを持てる社員教育を実践できるのがCSR活動ではないかと思っております。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A2
社員が率先して地元で困っている部分やまた、自治会等で行うにはちょっと大変だなと思う所に協力して、活動を広げていきたい。CSR自体企業体が自ら提案して独自で活動していることが多いので、地元の企業は地元住民のお困り応援隊みたいな活動ができればいいのではないかと思っております。

Q3．自治会町内会・地域団体NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

A3
今年度の主な活動については、
①アサガオの無料配布（地元人にもっと緑に触れあってもらう）500鉢を無料配布。環境創造局の横浜みどりアップ計画の一貫として独自で緑を増やそう計画を行っております。
②永谷高等学校のグランド整備（川崎総合科学 建設課の生徒にグランドを測量してもらい永谷高等学校野球部・川崎総合科学高校野球部と合同でグランド整備を行った。）
③除雪作業 1月2月に入って2回の雪の除雪を実施。近隣の小学校の生徒のスクールゾーンを中心に、地域住民が主要道路にでるまでの公道や坂道は特に車両が走れないので、地域住民がメインに使う道を除雪しました。
④秋の落ち葉時期に街路樹のケヤキ道を中心に8.5kmの街路樹の枯葉を地域住民300名前後の皆様と枯葉の一斉清掃を行いました。

地元の小学校にて、アサガオの無料配布

株式会社 春峰園
ＴＥＬ：045-783-8009
メール：shunpoen@poem.ocn.ne.jp
設立年：1978年
所在地：横浜市金沢区釜利谷東 8-3-20
分　野：造園土木業

08 株式会社 スリーハイ

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
横浜型地域貢献企業の認定を受け、本格的にCSR活動をはじめたのは2013年のことでした。当時は何から始めたらいいのかまったくわかりませんでした。そんな時、区内のNPO法人をご紹介いただきまして、スリーハイだからできるCSR活動のヒントを教えてもらい、工場を開放し、子供たち向けのオープンファクトリー「ヒーターを使ってプラ板をつくろう！」を開催したのです。以後、定期的にバレンタインデーや母の日などのイベントにあわせて開催をしています。
CSRは、業種、地域において最初に実施したところに先行利益があると考えます。故に、経営者は力が入ります。一方、社員は協力する立場から関わりますので、最初はうまく噛み合わず苦労しました。今では、社員が中心となって積極的に企画、提案をしてくれるようになって嬉しい限りです。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A2
私たちが籍をおく東山田は住宅と工場が隣接している（準工業）地域のため、騒音や匂いといったトラブルが起きやすいので、顔のみえる関係づくりは不可欠であると考えています。
今後は「防災」をテーマにした消火栓やAEDの使い方、避難訓練などを一緒にできたらと思います。地域企業として役割を明確にすることが地域の財産と認識していただく近道であり、企業として生き残る道の1つでもあると思います。

Q3．自治会町内会・地域団体NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

A3
2017年9月にオープンした「cafe & factory DEN」を場として『廃材は宝の山』プロジェクト（運営：一般社団法人 横浜もの・まち・ひとづくり）に関わっています。このプロジェクトは企業から出る廃材を学校の教育現場で有効に活用してもらおうという趣旨で実施しています。企業のCSRを促進し、子どもたちが製造業を知るきっかけとなっています。

「cafe & factory DEN」の店内　子ども向けワークショップを実施

株式会社 スリーハイ
ＴＥＬ：045-590-5561
メール：makoto.ozawa@threehigh.co.jp
設立年：1990年
所在地：横浜市都筑区東山田 4-42-16
分　野：製造業／産業用電気ヒーターの製造・販売

09 株式会社 太陽住建

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
「様々な繋がりの中に新たな事が生まれる」との想いから、地域行事などへ積極的に参加し、ソーラーバッタや防災ライトの無料工作体験などを提供しています。平成29年には横浜市住宅供給公社様の協力を得て、南区に井土ヶ谷アーバンデザインセンターを開設しました。施設内にあるコミュニティスペース「おひさま広場」では、行政・企業・NPO・地域住民が交わる拠点として様々なイベントを開催し、また地域の課題解決に取り組むリビングラボの開催や各団体の会議など、無料で場所を提供しており、多くの方に喜んでいただいております。また一部電源をオフグリッド（独立型電源システム）化し、災害時等の停電時には電源供給を可能にしています。

グリーンバード横浜南チームの集合写真。
毎月第一土曜日 10:00 ～屏風浦駅周辺と井土ヶ谷駅周辺。
毎月第三土曜日 9:00 ～杉田駅周辺にて清掃活動を実施。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A2
おひさま広場を活かし、地域コミュニティの活性化、再生可能エネルギーの普及、空き家対策等を行政・企業・NPO・地域住民が一体となって、課題解決に取り組める環境・イベントを提供していきます。

A3
まちの清掃を行う「グリーンバード」の取り組みは、本当に様々な立場の方々が一個人として、参加しています。

おひさま広場では、定期的にイベントを開催。
地域住民が多数参加している。

株式会社 太陽住建
ＴＥＬ：045-325-7133
メール：akiyama@taiyojuken.jp
設立年：2009 年
所在地：横浜市南区井土ケ谷下町 27-1
分　野：建設業

10 株式会社 通信設備エンジニアリング

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
2010年9月16日に横浜型地域貢献企業最上位認定を取得し、それに伴いCSR特別チームを発足させました。
CSRの活動はよこはま月例マラソンお手伝い（毎月第3日曜日）、障害者施設パン販売の場所提供、地域感謝祭（毎年秋開催）、中央図書館様へ絵本の寄贈、保土ケ谷交通安全協会様において交通安全啓蒙活動のお手伝いなど身近で地に足の付いた活動を中心に行っております。
徐々にではありますが様々な活動がステークホルダーの方々に周知されてきており、地域清掃で「いつもありがとう」や、地域感謝祭では「来年もよろしく」などの声を頂いており、継続的な活動が実を結び始めていると実感しております。

A2
現在行っている活動をより充実させることで「本業を通じたCSR活動」を目指すことにより、永続的な活動を目指しております。
その為には弊社の業務内容をCSR活動を通じてステークホルダーの方々に知っていただく必要があり、活動をホームページに掲載するなどその手法を模索しております。

A3
地域感謝祭はNPO法人マメポニ様、障害者福祉サービス事業所ネバーランド様、片倉うさぎ山プレイパーク様、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社様にご協力頂き、各ブースの運営をお願いしております。
また来場者アンケートの結果をCSRの権威である某大学の教授に分析、検証していただき今後の活動に役立てる予定です。

地域感謝祭では、NPO、地域の事業所と一緒にブースを運営

Q3．自治会町内会・地域団体NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

株式会社 通信設備エンジニアリング
ＴＥＬ：045-413-3811
メール：info@tsushin-setsubi.co.jp
設立年：1998 年
所在地：横浜市神奈川区片倉五丁目２番 32 号
分　野：弱電設備の施工、メンテナンス、リニューアル

11 株式会社 野毛印刷社

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に防災・減災に取組む企業や学校、自治体が増加しました。弊社では企業、学校などにおいて一人ひとり慌てずに震災発生時に適切な行動がとれるよう必要不可欠な情報を盛り込んだポケットサイズの「大地震対応マニュアル」を企画・販売しております。
特徴として ①避難場所や行動基準など組織固有の情報を掲載可能 ②携帯しやすい名刺サイズ ③「ストーンペーパー」採用による耐久性・耐水性 など挙げられます。
メディアでも取り上げられ、埼玉県自閉症協会からのお問合せをきっかけに「発達障がいのある人たちへの緊急時対応シート＋緊急時対応ハンドブック」が誕生しました。
今後も地域と密着した情報伝達の担い手として社会に貢献してまいります。
（株）野毛印刷社　防災対応特設サイト
http://bousai.noge-printing.jp/

A2
若年層の早期離職や少子化による人材不足を解消するために就職のミスマッチ防止を図りたい。
具体的には、さまざまな職業・会社紹介の動画や印刷物の制作に加えて学生が実際に企業を見る機会を提供することにより課題解決に貢献できると考えています。特に地場企業の活性化のためにも実現したい取り組みです。

A3
関東学院大学、横浜市立大学、富士ゼロックスとの協業により志プロジェクトという活動に取組んでいます。これからのプロジェクトの目的は企業取材を通じ、学生目線による企業の社会的価値の発信と学生自身が企業を見る目を養うことです。この活動を通じ、就職のミスマッチが減ることを願っています。

「緊急時対応携帯シート＋ハンドブック」

志プロジェクト取材の様子

株式会社 野毛印刷社
ＴＥＬ：045-252-2511
メール：abet@noge.co.jp
設立年：1951 年
所在地：横浜市中区相生町 5-79
分　野：印刷業

12 プリンス電機 株式会社

Q1．現在取り組んでいるCSR・地域活動について

A1
2008年7月に環境・社会宣言である、3つの「スリムエコ宣言」をしてCSR・地域活動に取り組んでいます。1つ目は「スリムエコ製品」で、省エネを推進する環境配慮型照明のスリムエコLEDを提案。2つ目は「スリムエコ企業」で、ISO14001を活用した企業活動に取り組み。3つ目は「スリムエコ活動」として、環境教育やステークホルダーとの環境コミュニケーション活動を積極的に展開。特に環境教育活動では、学校や市民へのあかりの環境出前講座、また、それらの経験を活かし、環境講座の計画から実施までのプロセスを紹介した横浜市立大学での寄付講座、その他NPO団体職員研修、商工会議所でのエコビジネスセミナー等「スリムエコ講座」を実施しています。

A2
環境・社会への取り組みを具体的に始めたい中小企業に役立つことは無いかと考え、2月のテクニカルショウヨコハマ2018では、日本経営士会の中小企業支援セミナーで「自社を活かした環境・社会活動を創る」と題しスリムエコ講座を実施しました。今後も、弊社と同じ中小企業へ環境・地域活動の取り組みを広めていきたいと考えています。

Q2．今後取り組んでみたい社会や地域の課題について

A3
自治会町内会：もちつき大会等へ駐車場提供。
地域団体NPO：生涯学習や研修などでスリムエコ講座の実施。行政：環境インターンシップ等の受入や横浜市立図書館へ児童書寄贈、ノベルティ提供などイベント協力。大学：横浜市立大学の寄附講座。弊社の特長である中小企業で照明メーカーであることやISO運用を活かして協働していきます。

Slim eco® 講座

鶴見区民活動センターにて、スリムエコ講座を実施

プリンス電機 株式会社
ＴＥＬ：045-501-4752（企画業務部 企画課）
メール：kikakuka@prince-d.co.jp
設立年：1958 年
所在地：横浜市鶴見区市場下町 8-25
分　野：電気用品製造業

Q3．自治会町内会・地域団体NPO・行政・大学等と一緒に取り組んでいる活動（または、取り組んでみたい活動）

みみずの蛇蚓のつぶやき

横浜市市民活動支援センター責任者
吉原 明香

「【巻き込まれ力】と【根源的体験】」

とある協働マスターに「つながっていく『風土』は、どうやってつくっていけばよいのでしょう？」と質問してみた。

「横の拡がりが生み出す、Win-Winの関係の連なりが、どれほどお互いの豊かさを生み出すか、という根源的な体験がないと、『仕事が増える』というところにしか発想がいかない。つまり立場を超えて共感し合う体験だと思うよ。組織の中にそういう体験を持ち合わせている人が増えれば風土になっていく。ただ、自ら望んで動く気持ちにさせるのは、至難の業だよね。」

そんな言葉を交わし、いたく納得してから、数日後「つながりのまちづくりフォーラム最後のディスカッション」の記録ビデオを見直した。

ファシリテーターの長田さんが、「いろいろなニーズに応えて疲弊して、自分たちが本当にやりたかったことがやれなくなるのはおかしいし、自分たちの本質的な部分まで捻じ曲げて組む（協働する）必要はない。短期的な成果から自由になって、試作品つくってみましょうとか、試しにやってみましょうとか、より楽しい協働に向かっていくと良いですね」と語っておられ、改めて印象深かった。

このフォーラムで、キーになった言葉の一つは『巻き込まれ力』。声のかかる人でありたい。それはたぶん、忙しい中にもゆとりを感じさせる佇まいが大事なような気がする。

これらを逆に並べてみると…

①巻き込まれ力を発揮して

②ゼロからイチをつくっていく、苦しくも楽しい取り組みへ自ら参画し

③横のつながりが、どれほどお互いの豊かさを生み出すかという根源的な体験をする

というステップアップが、見えてきた。

自身の根源的な体験はいくつか思い当たる。しかし、新たな①②③に挑戦したくなってきた。新たな組み合わせで根源的な体験を味わってみたい。

今回紹介した企業の方々を、親しみを込めてジバーズと呼ばせていただいた。「地場」と「磁場」をかけている造語だ。

横浜にはたくさんのNPOそして地場企業があり、ダイナミズムを生むためにはお互いにパートナーが必要だ。

勇気を出して、アプローチしていきたい。

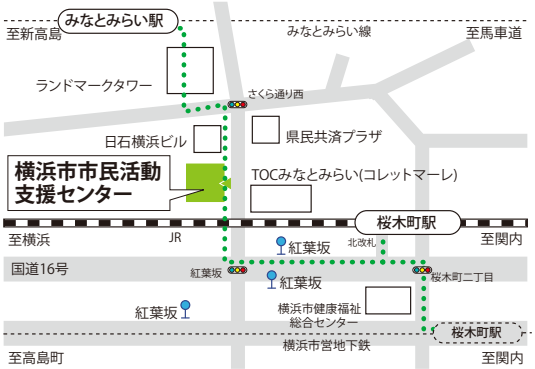
前号の反響

●巻頭文で中島先生が話されていた内容に、深く共感しました。「まずは相手を理解することから」という言葉を忘れずに、協働に臨みたいと思います。

●自分たちが持っている資源だけでは限界がある。当たり前のことだったのかもしれませんが、協働する意義を見出すことができました。

次号 Vol.24 は、8 月発行予定です。次号にも皆さまからの感想や反響を掲載します。
animato 編集チーム宛に、E メール（daihyo@hamacen.jp）にてお寄せください。（吉原・薄井・山田）

横浜市 Yokohama Citizens Empowerment Center
市民活動支援センター
管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま
https://opencity.jp/yokohama/
住所：横浜市中区桜木町1-1-56
みなとみらい21クリーンセンタービル4・5階
TEL：045-223-2666　FAX：045-223-2888
Email：daihyo@hamacen.jp
開館時間：月-土 9:00-21:00　日・祝 9:00-17:00
休館日：年末年始・第4日曜日（12月は第1・第4日曜日）
JR線「桜木町駅」北改札 徒歩5分
市営地下鉄線「桜木町駅」 徒歩7分
みなとみらい線「みなとみらい駅」 徒歩10分
発行日：2018年3月30日
デザイン・印刷：株式会社大川印刷



毎月メールマガジンを配信中。
アニマート　ピコ　検索
facebookもぜひご覧ください。
横浜市市民活動支援センター　検索

FSC® 森林認証紙、ノンVOC インキ（石油系溶剤0%）等印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生するCO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。